

067 イエスを連れ戻しに来た母と兄弟たち

マタイによる福音書 12 : 46~50、マルコによる福音書 3 : 31~35、ルカによる福音書 8 : 19~21

46 イエスがなお群衆に話しておられるとき、その母（マリア）と兄弟たちが、話したいことがあって外に立っていた。47 そこで、（そこにいた大勢の群衆の中の）ある人がイエスに、「御覧なさい。母上と御兄弟たちが、お話ししたいと外に立っておられます」と言った。

→イエスのことが心配になり、家族が会いに来た理由①（マルコによる福音書 3 : 21）

身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。

→イエスのことが心配になり、家族が会いに来た理由②（ヨハネによる福音書 7 : 5）

兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである。

48 しかし、イエスはその人にお答えになった。「**わたしの母とはだれか。わたしの兄弟とはだれか。**」

→公生涯の働きにあるイエスは、母という血のつながりを根拠として、母マリアや兄弟たちと個別に会うことを拒まれた。

49 そして、弟子たちの方を指して言われた。「**見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。**」

→（回復訳）そして、彼は弟子たちに手を伸ばして言われた、「**見よ、わたしの母とわたしの兄弟たちを！**」

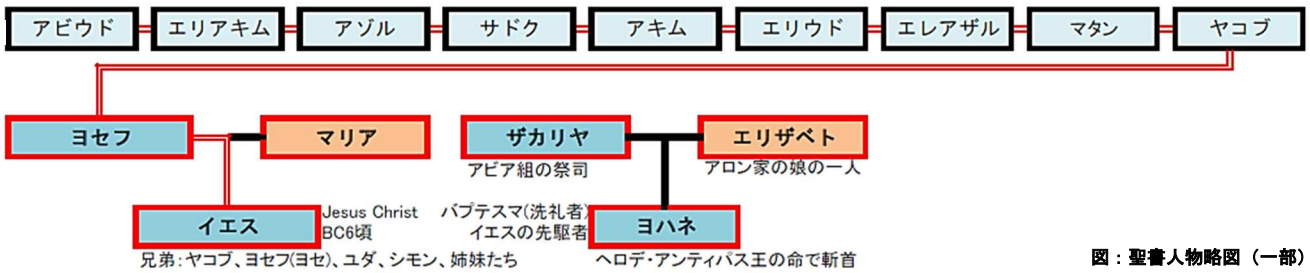
50 **だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。**」

→イエスとイエスに従う者との関係は、もはや肉においてではなく、霊における関係でした。イエスの父の御心（みこころ）を行なう者は誰でも、イエスを助け、イエスに同情する兄弟姉妹、優しく愛する母である。

【参考】 聖書にあるイエスの親族等

▶マタイによる福音書

01:16 ヤコブは①マリアの夫ヨセフをもうけた。この①マリアからメシア（→選ばれた者、油注がれた者、油を注ぐとは頭に油を塗ることの意味で、その者が特別に重要な職務に選ばれたことを示す[サムエル記上 12：13～15]。また、油を注ぐとは、神の力がその人に臨むしと見なされた＝マシアハ：ヘブライ語、メシアス：ギリシア語、キリスト＝クリトリス：ギリシア語、）と呼ばれるイエスがお生まれになった。



図：聖書人物略図（一部）

01:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母①マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊（→世で働く神の力で、新約聖書において、慰め主、あるいは助け主、弁護者として描かれる。）によって身ごもっていることが明らかになった。

01:19 夫ヨセフは正しい人（→もしくは「親切な人」、「常に正しいことを行う人」）であったので、①マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

01:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻①マリアを迎え入れなさい（聖書協会共同訳：恐れず①マリアを妻に迎えなさい）。①マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

→イスラエルの預言者たちはメシアがダビデの家系から誕生すると預言した（イザヤ書 11：1～5、マタイによる福音書 1：17）。

13:55 この人は大工の息子ではないか。母親は①マリアといい、兄弟は★ヤコブ、ヨセフ（＝ヨセ）、シモン、ユダではないか。

13:56 姉妹たちは皆、我々と一緒に住んでいるではないか。この人はこんなことをすべて、いったいどこから得たのだろう。」

イエスの兄弟姉妹：ヤコブ、ヨセフ（＝ヨセ）、シモン、ユダ、姉妹たち
 ヤコブ＝小ヤコブ＝義人ヤコブ：十二使徒の一人で、アルファイ[ギリシア語]（クロパ[アラム語、マルコによる福音書 3：18]＝クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24：18]) の子。
 ヤコブはイエスの死から復活までを目撃し（コリント信徒への手紙一 15：7）、エルサレムのユダヤ人キリスト教会の指導者となった（使徒言行録 15：13、21：18、ガラテヤの信徒への手紙 1：19）。教会の伝承によると、AD70年以前に処刑された。当時、息子の名前は父親の名前ヨセフを付けて呼ばれるのが習慣だが、ここではヨセフの名前が無い。恐らく既にヨセフが死んでいたか、または父親がいなかったと思われる。

27:56 その中には、②マグダラのマリア（→ガリラヤ湖の西端の町マグダラの出身で、イエスはマグダラのマリアを癒した[マルコによる福音書 16：9 等]。イエスに従う者として、またイエスの親しい友人として共に旅をした。）、①★ヤコブとヨセフの母マリア、③ゼベダイの子（→★大ヤコブ、★大ヤコブの弟のヨハネ）らの母（→サロメ）がいた。

▶マルコによる福音書

06:03 この人は、大工（→ギリシア語は、石やレンガを用いて建設、あるいは家具や道具を製造する人を指す。）ではないか。①マリアの息子で、★ヤコブ、ヨセ（＝ヨセフ）、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。

15:40 また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、②マグダラのマリア、①★小ヤコブとヨセ（＝ヨセフ）の母マリア、そして③サロメ（→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア）がいた。

15:47 ②マグダラのマリアと①ヨセ（＝ヨセフ）の母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

16:01 安息日（→金曜日の日没から土曜日の日没まで）が終わると、②マグダラのマリア、①★ヤコブの母マリア、③サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

▶ルカによる福音書

01:27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名は①マリアといった。

02:16 そして急いで行って、①マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

▶ヨハネによる福音書 →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。

19:25 イエスの十字架のそばには、①その母と④母の姉妹、⑤クロパ[アラム語]（→アルファイ[ギリシア語]の別名＝クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18]）の妻マリアと②マグダラのマリアとが立っていた。（新共同訳、聖書協会共同訳）

→Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

→さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。（口語訳）

→イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ（＝母の姉妹とクロパの妻マリヤとが同じ人）、マグダラのマリヤが立っていた。（回復訳）

→兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。（新改訳）

▶使徒言行録

01:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母①マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

▶ユダの手紙

01:01 イエス・キリストの僕で、★ヤコブの兄弟であるユダ（→マルコによる福音書 6 : 3）から、父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。

★：十二使徒 →【参考】

【参考】 イエスの十字架の時、そばにいた人たち(人名等は聖書の記述順)

マタイによる福音書	27 : 56	① マリア (→子 : イエス、小ヤコブ、ヨセ (ヨセフ)、ユダ、シモン) ② マグダラのマリア ③ ゼベダイの子 (大ヤコブ、弟のヨハネ) らの母サロメ
マルコによる福音書	15 : 40	② マグダラのマリア ① 小ヤコブとヨセ (=ヨセフ) の母マリア ③ サロメ (→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア)
ヨハネによる福音書	19 : 25	① マリア (←その母) ④ 母の姉妹 ⑤ クロパの妻マリア ② マグダラのマリア

回復訳 : イエスの母の姉妹でクロパの妻マリヤ
→母の姉妹=クロパの妻マリアとが同じ人

【参考】 大ヤコブ(ゼベダイの子)、ヨハネ、ヤコブ(小ヤコブ)

▶大ヤコブ(ゼベダイの子) Jacobus

→James「かかとを掴む者」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/ヨハネの兄(最初の殉教者)
 ヨハネの兄で「ゼベダイの子ヤコブ」である。「アルファイの子ヤコブ」と区別するため「大ヤコブ」(年長のヤコブ)とも呼ばれる。父はゼベダイ、漁師であった。弟のヨハネと共にガリラヤ湖畔で網の手入れをしていたところをイエスに呼ばれ、そのまま父と雇い人を残して弟のヨハネと共に弟子になった。二人はともに血気盛んで向こう見ずなところがあり「ボアネルゲス」(雷の子ら)と呼ばれていた。イエスが捕らわれる直前、オリーブ山のゲツセマネに向かった時に、ヨハネ、ペトロと同行した。しかし、イエスの苦悩の祈りをよそに眠り込んでしまった。

キリストの死後、6年間スペインに行き布教活動を行った。エルサレムに戻るとキリスト教徒への迫害はすざましく、「使徒言行録」12:2によるとユダヤ人の歡心を買おうとしたヘロデ・アグリッパ1世によって捕らえられ、殉教(斬首)した。使徒の中で最初の殉教者である。

彼の弟子達はパレスチナを離れ、遺骸をスペインのコンポステラ (campus stellae : 星の野原) に運んだとされている。

▶ヨハネ Johannes

→John「神は慈しみ深い」(ヘブライ語) ゼベダイの子、漁師/ガリラヤ出身/大ヤコブの弟

ゼベダイの子で大ヤコブの弟、ガリラヤの漁師の子。イエスを洗礼した洗礼者ヨハネの弟子。洗礼者ヨハネと区別するために特に「使徒ヨハネ」と呼んだり、「ゼベダイの子ヨハネ」「福音記者ヨハネ」と呼ぶこともある。ヤコブ、ペトロと共にイエスの一番弟子であり、常にイエスと行動を共にした。

兄弟ともに性格が激しく、勝ち気で、自分こそイエスの一番の弟子だと考え、仲間たちから「ボアネルゲス」(雷の子ら)とあだ名をつけられた。イエスが十字架にかけられたときも弟子としてただ一人、十字架の下にいた。また、イエスの墓が空であることを聞いてペトロとかけつけ、真っ先に墓にたどりついた。

イエスの母マリアを連れエフェソスに移り住んだヨハネは、その後、パトモス島(エーゲ海に浮かぶギリシアの小島)に幽閉され、そこで「ヨハネの黙示録」を記した。十二使徒の中でただ一人殉教せず、95歳まで生きたとされる。

▶ヤコブ(小ヤコブ) Jacobus

→James「かかとをつかむもの」ヘブライ語 義人ヤコブ、アルファイの子

ヤコブはイエスの親族(弟→マタイによる福音書 13 : 55、マルコによる福音書 6 : 3、または従兄→カトリック等)で、「アルファイの子ヤコブ」あるいは「小ヤコブ」といわれる。イエスと顔がよく似ていたと言われているが、十二使徒の中では目立たない存在で、名前しか知られていない。教会を代表する人物として活躍し、初代エルサレム司教になった。「ヤコブの手紙」の著者といわれている。

エルサレムの神殿の屋根から突き落とされ、頭をこん棒でたたき割られて殉教したといわれている。